

令和 3 年 4 月 27 日

文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学
フェローシップ創設事業」の実施機関として採択されました

広島大学は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の実施機関として採択されました。

今回採択された 47 大学のうち、ボトムアップ型及び分野指定型 3 分野のすべての博士課程学生を支援するのは、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、九州大学、本学の 7 大学のみです。

本事業では、令和 3 年度から広島大学大学院リサーチフェローシップ制度を開始し、情報・AI、量子、マテリアル、サステナビリティ学の分野に入学する優秀な博士課程後期学生 53 人をリサーチフェローとして認定し、毎年度生活費相当の研究専念支援金 180 万円と研究費 30 万円のフェローシップを支給します。

令和 3 年 4 月に認定したリサーチフェローは 38 人で、約 3 割は広島大学以外の大学から入学した学生です。広島大学の学生のみならず、他大学から広島大学大学院に進学する学生も、本制度にチャレンジできます。

今後、今年度分の追加募集や、来年度のリサーチフェローの募集を行う予定です。

認定したリサーチフェローには民間企業や国際機関、起業に至る多様な複線型のキャリアパス形成を支援し、地域社会・国際社会で活躍・評価される、世界で通用する研究人材として輩出します。

広島大学では、若手研究者が研究に専念できるよう経済的支援とキャリアパス支援を実施します。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携部 企画グループ 清戸
TEL:082-424-4614
Email:kenkyu-conso@office.hiroshima-u.ac.jp

採択機関一覧(支給予定人数順)

機関名	申請区分・支援予定人数				計
	ボトムアップ型	分野指定型(情報・AI)	分野指定型(マテリアル)	分野指定型(量子)	
国立大学法人東北大学	40	30	30	20	120
国立大学法人東京大学	25	20	30	35	110
国立大学法人京都大学	11	25	40	21	97
国立大学法人大阪大学	20	13	20	25	78
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学	26	26	13	12	77
国立大学法人北海道大学	20	40			60
国立大学法人広島大学	13	10	24	6	53
国立大学法人東京工業大学		40			40
国立大学法人九州大学	12	8	8	6	34
国立大学法人筑波大学	6	8		17	31
国立大学法人金沢大学	10	7	10		27
国立大学法人千葉大学	8	6		6	20
国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学	6	6	8		20
公立大学法人大阪大阪府立大学	6		10		16
東京都公立大学法人東京都立大学			15		15
立命館大学	15				15
国立大学法人新潟大学	7	7			14
国立大学法人神戸大学	7		7		14
国立大学法人熊本大学	8		6		14
国立大学法人信州大学	13				13
国立大学法人総合研究大学院大学	6	6			12
国立大学法人山形大学			10		10
国立大学法人富山大学	10				10
国立大学法人岡山大学	10				10
国立大学法人九州工業大学		10			10
東京理科大学			10		10
国立大学法人秋田大学	8				8
国立大学法人豊橋技術科学大学		8			8
国立大学法人徳島大学	8				8
公立大学法人横浜市立大学	8				8
国立大学法人奈良女子大学	7				7
国立大学法人茨城大学			6		6
国立大学法人山梨大学	6				6
国立大学法人お茶の水女子大学	6				6
国立大学法人東京医科歯科大学	6				6
国立大学法人東京外国語大学	6				6
国立大学法人東京農工大学	6				6
国立大学法人静岡大学	6				6
国立大学法人三重大学	6				6
国立大学法人京都工芸繊維大学			6		6
国立大学法人愛媛大学	6				6
国立大学法人長崎大学			6		6
公立大学法人名古屋市立大学	6				6
公立大学法人京都府立医科大学	6				6
公立大学法人大阪大阪府立大学				6	6
公立大学法人兵庫県立大学	6				6
同志社大学	6				6
計	382	270	259	154	1,065

(人)

(参考)

採択件数	37	17	18	10	82
------	----	----	----	----	----

(件)

背景・課題

- 博士後期課程における経済的な不安と研究者としての将来のキャリアパスが不透明であることが相まって、近年、我が国では、**博士後期課程に進学する学生が減少傾向**にある。また、博士号取得者数も、主要国の中で**我が国は唯一減少傾向**にある。さらに、社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ（人材ニースの乖離）が存在するとの指摘もある。
- 博士人材は、知識集約型社会への転換が加速している我が国の発展を担うべき存在であるが、優秀な学生が研究の世界に失望し、研究者を志望しないとの厳しい指摘も多く、**我が国の将来の科学技術イノベーションの空洞化が強く懸念される**。また、**新型コロナウイルス感染症の拡大による博士号取得の遅れや研究環境、経済状況の悪化により、上記の状況はさらに深刻化されることが見込まれる**ところ、この危機的状況を打開するためには、博士課程学生への支援の在り方を根本から変えていく必要があり、**大学のシステム改革と連動した対策が急務**である。

【統合イノベーション戦略2020（令和2年7月17日 閣議決定） 抜粋】

- 博士後期課程学生の処遇向上に向けて、学内フェローシップと博士課程修了後のキャリアパスの確保を一体として実施する大学への支援策の検討を進める。

事業概要

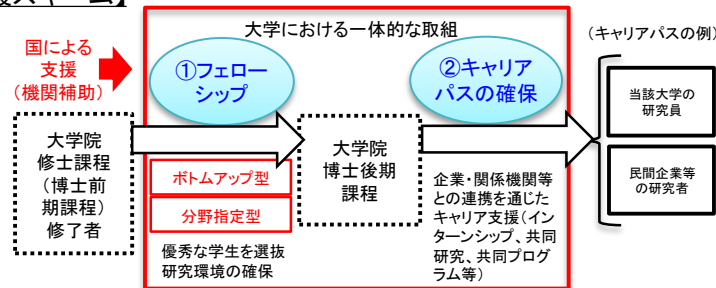
【事業の目的・目標】

- ①**博士後期課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）**と、②**キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）**を、全学的な戦略の下で、**一体として実施する大学への新たな補助金**を創設する。
- 価値創造の源泉である基礎研究・学術研究の**卓越性**と**多様性**を維持・強化していくため、将来を担う博士人材を戦略的に育成していくことが必要。このため、フェローシップは、各大学が将来のイノベーション創出等を見据えてボトムアップで提案する**ボトムアップ型**と、国がトップダウンで分野を指定する**分野指定型**の2タイプとする。

【事業概要】

- フェローシップは、以下の2タイプ。
 - ・**ボトムアップ型**：大学の強みや地域の強み等を生かしたイノベーションの創出等が見込まれる人文・社会科学を含む幅広い分野を大学が提案
 - ・**分野指定型**：産学を通じて、人材ニースの高まる分野（情報・AI、量子、マテリアル等）を国が指定
- キャリアパスの確保は、当該大学の研究員ポストや、民間企業等の外部ポストへの接続等が要件。なお、民間企業・関係機関等と連携し、ジョブ型研究インターンシップや共同研究等の人材育成プログラムの活用等を想定。

【支援スキーム】



【支援内容】

- ✓ 支援対象：国公立大学（機関補助）
- ✓ 支援期間：7年間(6年目以降は継続分のみ)
【国立大学の次期中期目標期間と連動】
- ✓ 支援規模：延べ55機関程度, 1機関当たり10~25人程度
総支援人数：1,000人/年
- ✓ 補助率：3分の2
〔（生活費相当額（180万円~/人）+ 研究費）×2/3〕
※事務経費×2/3を別途補助
※準備事業における事務経費については定額補助

アウトプット(活動目標)

【フェローシップの受給者数】	
令和3年度	1,000人
令和4年度	2,000人
令和5年度	3,000人

【フェローシップ設立大学数】	
令和3年度	延べ55大学程度
令和4年度	〃
令和5年度	〃

【外部機関と連携した大学数】	
令和3年度	15大学
令和4年度	35大学
令和5年度	55大学

アウトカム(成果目標)

- 【初期アウトカム】
 - ・大学における戦略的な博士後期課程学生支援の実施
 - ・研究環境の充実に対する博士後期課程学生の満足度の上昇
- 【中期アウトカム】
 - ・大学から博士後期課程学生への支援の充実（博士後期課程学生支援の多様化）
 - ・進学者の経済的不安等の減少
 - ・博士後期課程進学者の増加
- 【長期アウトカム】
 - ・社会の人材ニースと博士人材の育成とのギャップが解消し、優秀な博士人材が社会の多様な場で活躍できる環境の実現

インパクト (国民・社会への影響)

産学を通じて、イノベーションの創出に資する博士人材が活躍することで、我が国のイノベーションの創出力を高め、その成果が社会に還元される。

【事業の目的・目標】

国

科学技術人材育成費補助金（定額補助）

大学、国立研究開発
法人、民間企業

- ①博士課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）と、②キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）を、全学的な戦略の下で、一体として実施する大学への新たな補助金を令和3年度に創設すべく、支援機関の早期採択を実施。採択機関において、対象学生の選定や、先行的な体制整備等を令和2年度中に実施し、令和3年度当初からの学生支援を遅滞なく開始する。

※キャリアパスの確保は、当該大学の研究員ポストや、企業等の外部ポストへの接続が要件。なお、企業・関係機関等と連携し、インターンシップや共同研究等の人材育成プログラムの活用等を想定。

【支援内容】

①博士課程学生への支援を遅滞なく実施するための先行的な体制整備と審査の前倒し

- 博士課程学生へのフェローシップ支援（生活費相当額（180万円）以上を含む）やキャリアパス確保に向けた取組を4月から遅滞なく実施するため、大学の体制整備や学生の審査を今年度中に実施するための経費を先行的に支援。



各大学における博士課程学生に対する生活費支援を、遅滞なく年度当初から実施

②博士課程学生のキャリアパス確保に資する体制整備

- 各大学のキャリアパス確保に向けた取組を効果的・効率的に実施するため、各大学や民間企業等の情報を集約し、マッチングを促進するための体制を先行的に整備。



各大学が行う民間企業等との連携に関するマッチングについて、年度当初から効率的に実施